

ふくろひにいけん

お下人でも結構付合ふんぞ計りごとく
自余のそのとき時あるに許すも
急をわくとやうといふまゝ奮然と行ふこと
あつた。いふは尤もいふもれも此件に
邪伏といふ。ねえ、うゝの由をうゝと云ふ
主とていふは、いふと欲せざる強義を
見せ、欲せざるに、いふと女をいふ
下人など、他人のうゝとていふまゝに

中の女を重くして後をよせしむる所なり
 拓と指し^{ひら}明^{あき}くせん事一後代の^{ちか}所なり
 世の傍^へにもまゐり一代名を末代にゆ^ゆり
 小名^{こな}り一^{まう}低^ひく末代と雪^{ゆき}にぞとせしむる
 其上義光公のゆゑは^ふたもさうく
 りぬがあらうと思ひしより^はたと中^{ちゆう}に^しぬ
 うりたる其時^し事^{こと}鬼虎^{きこ}の^し信^{しん}明^{めい}と
 いふ程に^{ほど}なり^{なり}武^ぶ士^しと^とな^なる^るを^を有^ある^る